

# 受精卵の遺伝的能力評価で黒毛和牛の改良効率アップ

受精卵を選んで優秀な子牛を効率よく生産できるようになりました

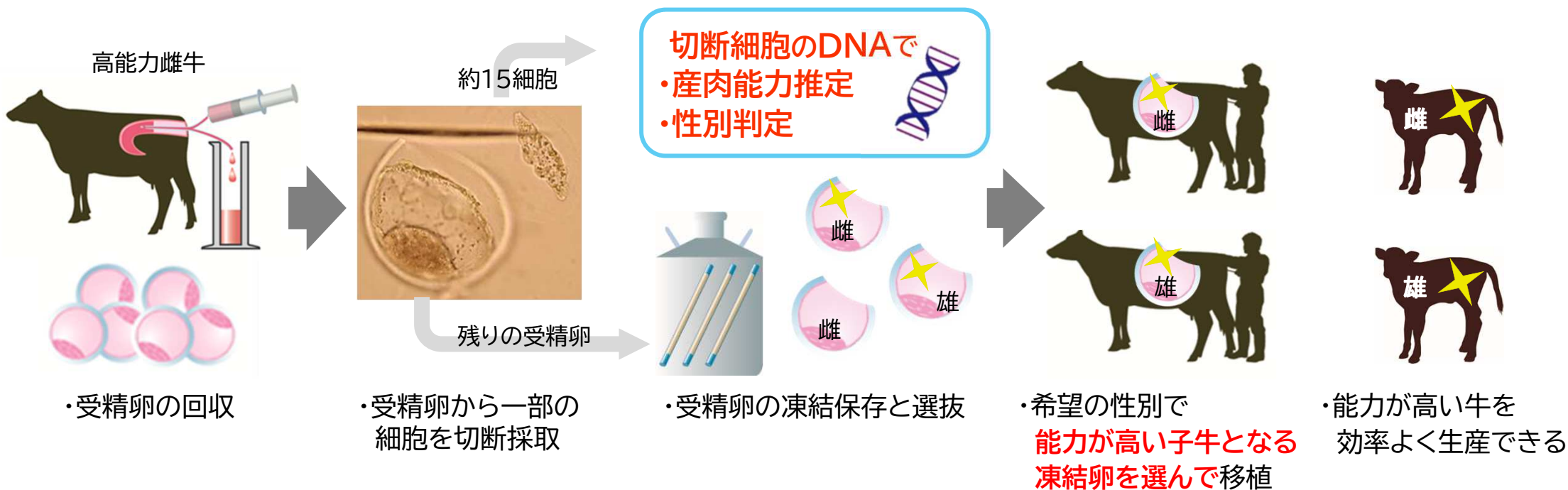
## 背景

これまでは優秀な親同士を交配させ、約1年後に子牛が産まれてからでなければ、能力を評価できませんでした。

このため、より効率的な黒毛和牛の選抜手法が求められてきました。

## 成果

子牛になる前の受精卵の段階で黒毛和牛の産肉能力を推定できる技術を開発し、選抜技術の実用性を示しました。



## 期待される効果

○道内の種雄牛造成機関や和牛改良組合等が活用し、北海道黒毛和牛のより一層の改良が見込まれます。

共同研究機関：(一社)ジェネティクス北海道